

最近の外国債券・為替市場の動きについて

大和証券投資信託委託株式会社

< 欧米の株式相場下落を受けて、債券利回り低下と円高が進行 >

先週末(6月4日 現地)の海外市場では、欧州や米国の株式相場下落やユーロ安をきっかけに、外国債券の利回りは低下し、円が独歩高の展開となりました。週明け7日午前の東京市場でも、円高傾向が引き継がれています。時系列では、おおむね以下のような展開となりました。

- (1)6月3日にハンガリー新政権の首相報道官が、前政権の財政統計粉飾疑惑に言及するとともに、「経済は非常に容易ならざる事態であり、デフォルト(債務不履行)の噂は決して誇張ではない」と述べ、ハンガリー経済に対する懸念が高まった。
- (2)6月4日(現地)の欧州市場開始以降、ユーロ圏周辺国の国債とドイツ国債利回りとのスプレッド(利回り格差)が拡大。欧州ソブリンリスク(国家の信用リスク)への懸念から欧州株が下落。外国為替市場ではユーロが独歩安傾向に。
- (3)米国の5月雇用統計において、民間部門の雇用増加が市場予想を下回ったことから米国株が下落。リスク回避姿勢の高まりから、外国為替市場では円高が進行。欧米債券市場では債券利回りが低下。
- (4)ユーロが下落する中で、追い打ちをかけるように、フランスのフィオン首相が「ユーロの下落を懸念していない」などと発言、ユーロの下落に拍車がかかるとともに、リスク回避姿勢の高まりから円高傾向が強まる。
- (5)米国株が下落幅を拡大。ニューヨークダウ工業株30種平均の引値は9,931.97ドル(前日比-3.15%)。為替市場では円高傾向のまま取引を終了。米国債券利回りは大幅に低下。
- (6)週明け7日午前中の東京市場では、海外市場に追随して日本株が大きく下落。投資家のリスク回避姿勢がさらに高まるとの懸念から、海外市場の流れを受けてさらなる円高が進行。

また、次ページの表は、6月3日から4日にかけての外国債券利回りの変化と、6月4日から6月7日午前にかけての各国の対円為替相場の変動を示したものです。

米国雇用統計において民間雇用が市場予想を下回ったことや、欧米株価の下落を受けた「質への逃避」により、先進国の債券利回りは低下しました(豪州とニュージーランドについては、時差の関係で6月4日の欧米市場の影響を受けていません)。その一方で、ハンガリー新政権の不用意な発言などにより、東欧諸国では資金流出懸念から、ハンガリー債券を中心に利回りが上昇しました。

外国為替市場では、同様の理由で東欧通貨が大幅に下落しました。また、投資家のリスク回避姿勢による利益確定売り圧力の高まりに加え、資源価格下落の影響も受けて、ユーロよりも豪ドルやカナダドルなどの下落幅が大きくなっています。

< 債券利回りと対円為替相場の変化 >

債券市場(5年国債利回り)

| | 2010/6/4 | 2010/6/3 | 変化 |
|----------|----------|----------|-------|
| 米国 | 1.98 | 2.15 | -0.17 |
| カナダ | 2.56 | 2.69 | -0.13 |
| ドイツ | 1.45 | 1.56 | -0.11 |
| 英国 | 2.20 | 2.27 | -0.08 |
| デンマーク | 1.80 | 1.90 | -0.09 |
| スウェーデン | 2.04 | 2.12 | -0.09 |
| ノルウェー | 2.46 | 2.50 | -0.05 |
| ポーランド | 5.37 | 5.30 | +0.07 |
| チェコ | 2.95 | 2.90 | +0.05 |
| ハンガリー | 7.76 | 6.93 | +0.83 |
| 豪州 | 5.07 | 5.08 | -0.01 |
| ニュージーランド | 4.94 | 4.96 | -0.02 |

出所:大和投資信託

*ハンガリーは6年国債利回り

為替市場

| 対円相場 | 2010/6/7 | 2010/6/4 | 変化率 |
|-------------|----------|----------|--------|
| 米ドル | 91.13 | 92.76 | -1.76% |
| カナダ・ドル | 85.34 | 89.18 | -4.31% |
| ユーロ | 108.44 | 112.88 | -3.93% |
| 英ポンド | 131.37 | 135.78 | -3.25% |
| デンマーク・クローネ | 14.58 | 15.17 | -3.89% |
| スウェーデン・クローネ | 11.27 | 11.80 | -4.49% |
| ノルウェー・クローネ | 13.66 | 14.33 | -4.68% |
| ポーランド・ズロチ | 26.25 | 27.59 | -4.86% |
| チェコ・コルナ | 4.22 | 4.40 | -4.09% |
| ハンガリー・フォリント | 0.3808 | 0.4102 | -7.17% |
| 豪ドル | 73.92 | 78.45 | -5.77% |
| ニュージーランド・ドル | 60.43 | 63.50 | -4.83% |

出所:大和投資信託

< 今後の見通し >

世界的に株価が下落する局面では、投資家のリスク回避姿勢の高まりから、外国為替市場では円が独歩高になる傾向が続いています。また、欧州ソブリンリスクへの懸念の高まりが、度々株価下落の材料とされています。ただし、6月4日から7日にかけての株安と円独歩高は、悪材料が重なったことによるものであり、個別の事象についてはそれほど悲観すべきものではないと考えています。

前頁でご説明した(1)のハンガリーについては、新政権は国民の財政健全化への意識を高めるためにデフォルトに言及したものの、市場の混乱を受けて週末にかけて方針を転換しており、デフォルト懸念はないと見解を覆しています。EU(欧州連合)や米格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスのアナリストも、デフォルトリスクは存在しないとするハンガリー政権の見方は正しいとコメントしています。また、ハンガリーはすでにEU、IMF(国際通貨基金)から支援を受けており、資金繰りへの懸念は低いことから、同国をめぐる過度の懸念は徐々に沈静化する可能性が高いとみています。(3)の米国民間雇用については、市場の予想こそ下回ったとはいえ、着実に増加傾向を示しています。(4)はあくまでもフランスの見解であり、ユーロ参加国の統一した見解ではありません。また、市場では、交易条件が改善することから、ユーロ参加国は秩序だったユーロ安は歓迎するとの見方が支配的であり、市場にとって大きなサプライズではありませんでした。

いずれにせよ、世界的な株安が進行する局面では、為替市場で円が独歩高になる傾向は続きそうです。ただし、欧州ソブリンリスク問題によって、世界的な景気回復傾向が大きく変調を来すほどの悪影響を受けるとは考えておらず、世界的な株安の余地も限定的とみています。ユーロ為替相場の不安定さが続く懸念は残るものの、その他の通貨に対する円高傾向は長続きせず、資源国や順調な景気回復を続けている国の通貨が選好される展開にいずれは回帰すると考えています。

以上

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

手数料等およびリスクについて

- 株式等の売買等にあたっては、「ダイワ・コンサルティング」コースの店舗（支店担当者）経由で国内委託取引を行う場合、約定代金に対して最大 1.20750%（但し、最低 2,625 円）の委託手数料（税込）が必要となります。また、外国株式等の外国取引にあたっては、現地諸費用等を別途いただくことがあります。
- 株式等の売買等にあたっては、価格等の変動による損失が生じるおそれがあります。また、外国株式等の売買等にあたっては価格変動のほかに為替相場の変動等による損失が生じるおそれがあります。
- 信用取引を行うにあたっては、売買代金の 30%以上で、かつ 30 万円以上の委託保証金が事前に必要です。信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、損失の額が差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。
- 非上場債券（国債、地方債、政府保証債、社債）を当社が相手方となりお買付けいただく場合は、購入対価のみお支払いただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動に加え、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- 投資信託をお取引していただく際に、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費、等をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

- 取引コースや商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書、等をよくお読みください。
- 外国株式の銘柄には、我が国の金融商品取引法に基づく企業内容の開示が行われていないものもあります。

商号等 : 大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号

加入協会 : 日本証券業協会、社団法人 日本証券投資顧問業協会、社団法人 金融先物取引業協会